

写真等

(デザイン時に挿入予定)

目標指標 (KGI)

指標	単位	過年度実績値 (R2年度)	現状値 (R7年度)	目標値 (R13年度)
市内従業者数 (工業)	人	3,049	2,957 (R6.4~R7.3)	現状値を維持 (R11.4~R12.3)
林業事業体数	社	23	27	29
農地利用面積	ha	1,338 (R1)	1,262 (R6)	1,191
観光入込客数	千人	979	883 (R6実績)	1,110
ふるさと納税寄付金額	千円	243,916	253,556 (R6実績)	300,000

基本方針 1 働く場の充実



めざすまちの姿

自分の能力と魅力を活かして活躍できる、やりがいと働きがいを感じられる場に出会えるまち

現状と課題

- ◆多くの市民が、少子高齢化に伴う今後の経済活動の停滞や働き口の減少に対し、不安を感じています。
- ◆高校卒業後に宍粟市から離れた若者の多くが戻らず、若い世代の市内就職者数は減少が続いています。
- ◆女性の就業率は上昇傾向にありますが、半数以上の女性が非正規雇用で働いている状況です。
- ◆中小企業・小規模企業の減少や人材不足により、地域経済と雇用の停滞が懸念されます。
- ◆付加価値の創出が不足しており、地域資源を活かしたブランド化を進めていく必要があります。
- ◆新規起業が直ちに雇用の創出につながるケースは多くないため、起業後のフォローアップ体制の充実により、雇用機会の拡大を進めていく必要があります。
- ◆本市では、手厚い産業立地の支援制度を整えています。が、広大な産業用地が不足しており、企業誘致の成果は乏しい状況です。

グラフ など

写真 など

市民の声から（アンケート調査より）

- 就職先が少ないので若者が市外に出ることが多い。若者が育った宍粟市に戻ってきて、働けるまちであってほしい。
- スモールビジネスの立ち上げの支援を考えていくことも必要。
- 土地がたくさんあるので、若者が働きたいと思える会社や工場などを誘致して、市が盛り上がるようにしてほしい。
- 中国道などの交通の便を活かして、企業を誘致し、雇用促進を図ってほしい。

政策1 生き生きと働ける場の創出

1. 労働人口の流出抑制のため、高校生に向けた地元企業のPRによる就業促進など、若い世代の就職を積極的に応援します。
2. 事業者と求職者のマッチングを促進するため、関係機関と連携し、就職に関する相談体制を充実させるとともに、人材育成に取り組みます。
3. 仕事と生活の両立や、女性の職場復帰がしやすくなるよう、労働者のライフステージに応じた柔軟な働き方（ワーク・ライフ・バランス）を推進するとともに、職場でのハラスメント防止に向けた啓発を行います。
4. 中小企業・小規模企業の経営基盤の強化をめざし、6次産業化や広域連携による販路拡大・事業連携などを進めます。
5. 事業者の持続的な経営安定に向けて、経営相談や後継者育成に向けた支援を行います。

政策2 起業支援と企業誘致の推進

1. UJIターンによる起業を含め、新規創業を促進するため、商工会をはじめとする関係機関が連携し、支援体制の強化を図ります。
2. 産業団地の新規開発や、市外からの企業誘致につなげるため、用地確保を含めた可能性を引き続き研究するとともに、市内事業者の拡張・移転を支援します。

関連個別計画

- ◇産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画
- ◇宍粟市男女共同参画プラン

◇宍粟市都市計画マスタープラン

基本方針 2 活気ある産業の振興



めざすまちの姿

豊かな自然や森林をはじめとする資源を最大限に活用し、
地域経済が持続的に発展するまち

現状と課題

- ◆ 林業や農業の担い手不足や高齢化により、山林や農地の管理が行き届かず、土砂災害防止や景観形成などの多面的機能の低下が懸念されます。
- ◆ 豊富な森林資源を有する一方で、人口減少に伴う住宅着工件数の減により、穴栗材の地域内需要の低下が見込まれます。
- ◆ 農業における課題は地域特性によって異なり、北部地域では収益性の高い作物の栽培促進やブランド化、南部地域では集積などによる農作業の効率化を進める必要があります。
- ◆ 「日本酒発祥の地」や豊かな自然や森林といった資源があり、他地域にはない観光コンテンツも複数展開していますが、観光入込客数は減少傾向が見られます。目的地として選ばれるコンテンツの確立や、観光に対する市民の関心を高める取組を進める必要があります。
- ◆ 近年、スマホ・SNSが観光客の情報収集手段の中心となるなど、観光客の意思決定プロセスやニーズが大きく変化しています。
- ◆ 経済効果の低い日帰り観光が主流となっており、また、年間を通した観光客の誘致が不足しています。

グラフ など

写真 など

市民の声から（アンケート調査より）

- 農林業が衰退していかないよう、後継者と従事者の育成や支援を行うための仕組みが必要。
- 農業収入だけでは暮らせないと思う。農家が増えるよう、所得を上げられるとよい。
- 森林という素晴らしい財産を活かして、観光を活性化させてほしい。
- 穴栗の森を活かした子どもから大人まで楽しめる施設ができると、観光客も増えるのでは。
- 「穴栗市だけ」という特化するものがあればよいと思う。

政策3 持続可能な循環型林業の推進

1. 人工林整備の推進による適正なサイクルでの森林管理を図るため、林業生産基盤強化に向けた事業者支援を継続します。
2. 安定的で持続可能な穴栗材の流通をめざし、公共・民間建築での利用促進による、地域内循環と広域流通に取り組みます。
3. 担い手を確保・育成するため、職場環境の改善を進めるとともに、中高生に対する啓発を通じて林業のイメージアップを図ります。

政策4 地域特性を活かした農業の活性化

1. 担い手の確保・育成に向けて、農作業労力の軽減や省力化・効率化を図ります。
2. 農地を地域全体で守る意識の醸成につなげるため、農業組織のほか、自治会をはじめ多様な地域関係者が連携し、補完し合う体制構築をめざします。
3. 農産物の魅力と需要を向上させるため、地域の特性に応じた収益性のある農産物の栽培を推進するとともに、ブランド化や6次産業化に取り組みます。
4. 鳥獣被害による生産意欲の低下を防止するため、より効果的な捕獲活動を展開します。

政策5 地域資源の活用による観光の振興

1. 観光ニーズの変化に対応するため、豊かな自然を活かした森林セラピーなどのアウトドア活動を中心とした体験型観光を推進します。また、点在する観光コンテンツを結び付け、市内を周遊するツーリズムの構築を図ります。
2. 観光情報を効果的に市民や観光客に届けるため、多様な媒体を用いて、質の高い情報発信に取り組みます。
3. 観光資源を最大限に活用するため、観光関連事業者・団体、農林業、飲食業、商工業などの異業種連携及び地域との連携の体制づくりを進めます。
4. 年間を通じた観光客の誘致に向けて、中心市街地におけるまち並み景観の更なる活用と、受け入れ体制の充実を図ります。

関連個別計画

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ◇穴粟市環境基本計画（第4次） | ◇穴粟市鳥獣被害防止計画 |
| ◇穴粟市森林整備計画 | ◇穴粟市農業農村整備事業管理計画 |
| ◇穴粟農業振興地域整備計画 | ◇農業経営基盤促進計画（地域計画） |
| ◇健康しそ 21（第3次）及び第2次穴粟市食育推進計画 | ◇穴粟市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想 |
| ◇ふるさと穴粟の観光基本計画 | ◇穴粟市アウトドア活動推進計画 |

基本方針 3 選ばれるまちの創出



めざすまちの姿

魅力発信と認知度向上で多くの人が宍粟市を選び、「住み続けたい」「戻ってきたい」と思えるまち

現状と課題

- ◆多くの市民が、人口減少が進む中で地域の担い手が不足していくことに対し、不安を感じています。多様な形で「宍粟市に関わってみたい」と感じてもらえる関係人口を創出していく必要があります。
- ◆近年、SNSや動画プラットフォームが、市内外の人にとって本市の情報を入手する主要なツールになっています。
- ◆本市では、魅力ある風景を維持し、さらに磨きをかけることで来訪者の満足感を高め、知名度の向上や地域経済の活性化、市民としての誇りや自信につなげることをめざし、「宍粟市風景ビジョン」を策定しています。
- ◆単身高齢者世帯の増加に伴い、今後も空き家が増加することが予測され、市民の不安要因となっています。
- ◆空き家を利用した移住が年間 15～20 世帯あるなど、本市の空き家バンク制度は全国的に見ても高い成約率を達成しています。
- ◆高校卒業後の進路で宍粟市から離れた若者の多くが、そのまま市外で就職・結婚する傾向が強く、特に女性の回帰率の低さが課題となっています。

グラフ など

写真 など

市民の声から（アンケート調査より）

- 自然に関するイベントを増やして、宍粟市のことをもっと知ってもらうことが必要。
- SNSで宣伝して宍粟市の知名度を上げ、観光客や移住者を増やし、豊かなまちになってほしい。
- 外へ出ても帰ってくることが幸せだと感じられる地域にしたい。
- 人口の流出は止めることが難しいかもしれないが、住んでいる私達が自分達のまちを好きでいることが大事だと思います。
- 働く場所がなければ、移住や卒業後に住むのに選ばれるまちにはならないと思う。
- 小さな市だからこそ、人々の関わりと温かさが宍粟市の良さだと思います。

政策6 シティプロモーションの推進

1. 本市の魅力を広く伝えるため、特産品のブランド化を進めつつ、ふるさと納税制度のポータルサイトや営業活動を通じた効果的なPRを推進します。
2. 関係人口の増加に向けて、「日本酒発祥のまち」や「森林と共に生きるまち」など、郷土の豊かな歴史や地域資源を通じた魅力の再発掘に取り組みます。
3. シビックプライドの形成に向けて、市公式インスタグラムなど、SNSによる市内外に向けた情報発信を進めるとともに、市民が宍粟市の魅力に触れる機会の充実を図ります。
4. 宍粟市への愛着の醸成につなげるため、「宍粟市風景ビジョン」の意義や方向性を市民・事業者・行政で共有します。

政策7 移住の推進

1. 移住希望者へ情報を的確に届けられるよう、多様な媒体や手段を活用し、発信力の強化を図ります。
2. 空き家の活用を推進するため、空き家バンクの充実や空き家改修支援の強化を図ります。
3. 若者の定住と移住体制の充実のため、子育て世代の住宅取得支援や職業紹介など、様々な分野における横断的な連携を図ります。
4. 女性の回帰率を向上させるため、雇用環境・生活基盤・ジェンダー意識の改善に取り組みます。

関連個別計画

- ◇宍粟市風景ビジョン
- ◇宍粟市環境基本計画（第4次）

- ◇宍粟市空き家等対策計画
- ◇ふるさと宍粟の観光基本計画